慶應義塾の歴史

慶應義塾大学、創立159年。
その歴史は、
日本の近代教育の歴史です。

2017

2013 横浜初等部開校
大阪シティキャンパス開校

2008 慶應義塾創立150年
薬学部、薬学研究科、システムデザイン・マネジメント研究科、メディアデザイン研究科開設

2005 健康マネジメント研究科開設

2004 法務研究科（法科大学院）開設

2003 理工学研究科
先端科学技術国際コース開設

2001 看護医療学部開設

2000 理工学研究科(修士・後期博士課程)組織改革
基礎理工学専攻、総合デザイン工学専攻、
開放環境科学専攻

1996 政策・メディア研究科(後期博士課程)開設

1994 医学研究科(修士課程)医科学専攻開設
政策・メディア研究科(修士課程)政策・メディア専攻開設
大学院研究科に新たに２つの修士課程が置かれました。

1992 湘南藤沢中等部・高等部開校

1990 海外での教育を開始
国際化の波は海外在住の日本人を急増させ、海外子女に対する教育が問題となっています。また、国内でも国際感覚の高い人材の養成は急務です。そこで、日米の教育のよさをあわせ学んだ国際人の養成を目的に、1990(平成２)年、米国にニューヨーク学院(高等部)を開設。慶應義塾の海外での教育・研究の拠点として、その第一歩を印しました。

ＳＦＣ開設
総合政策学部・環境情報学部が置かれました。

1985 理工学研究科開設

1981 工学部を理工学部に改組

1962 ビジネス・スクール発足

1957 商学部開設

大学令(1920)による私大設立、教育基本法・学校教育法(1947)の公布など教育制度の改革がすすむ

1947 男女共学を実施
『学問のすゝめ』の冒頭に加え、多くの著作により福澤は、男女平等の教育を訴えました。この宿願は戦後、教育基本法の制定でようやく実現。最初は中等部設立で男女共学を実施し、続いて女子高等学校の設立で女子のみの教育を開始。大学でも男女共学が実施されました。

1944 藤原工業大学が寄付され工学部となる

文部省を中心に学制の公布(1872)、小学校令制定(1908)、大学令・高等学校令の公布(1918)など教育機関の整備が実施された

1920 文・経済・法・医からなる総合大学となる

1906 大学院設置
学部卒後の教育・研究を望む気運が高まり、1906(明治39)年大学院を設置しました。これが現在の新制の大学院になったのは1951年です(国立大学では1953年から)。研究者の養成に際し、義塾は早くから大学院の役割を重視していました。

1899 私学初の留学生派遣
大学部開設当初の問題は、教授の確保でした。「名実ともに学問の府となるには、義塾出身の大学教授を」と考えた福澤は、1899(明治32)年、大学部の卒業生数名を欧米に留学させます。これが私学初の留学生派遣です。帰国後、彼らは大学部の教授陣に加わり、彼らに教わった学生がまた教授となる。半学半教という義塾の伝統は、この留学制度でも新たな成果を生みました。

1898 一貫教育の完成
6年制の正科と3年制の大学部からなる、それまでの組織を、1898(明治31)年、5年制の大学部、5年制普通部(中等教育)、6年制の幼稚舎(初等教育)からなる組織に改編。幼稚舎から16年、普通部からは10年という今日とほぼ同じ一貫教育を確立しました。

江戸幕府・明治政府でも様々な教育機関を設立、その改革が行われた

1890 大学部発足
1890(明治23)年、3人の主任教授をハーバード大学から招聘。福澤念願の大学部(文学科、理財科、法律科)を設置。1920年大学令公布により法令に基づく大学となり、その際自然科学系統の医学部も含めて、私学ではじめての総合大学(ユニバーシティ)になりました。

1874 幼稚舎発足

藩校の設置・改革など自藩内の教育を強化

1868 通称福澤塾を慶應義塾と命名
欧米視察で新しい教育の必要性を感じた福澤は1868(慶應４)年、授業料制により、藩や国から独立した近代教育の先駆となる学塾を創設。元号から仮に慶應義塾と命名しました。

1863 より実用性の高い英学塾に転向

1858 福澤諭吉、蘭学塾を創始
江戸築地鉄砲洲の中津藩奥平家の邸内に福澤が開いた蘭学塾が慶應義塾の前身です。現在、中央区明石町の同地に慶應義塾発祥の地記念碑が建てられています。